

参加申込要領

● お申し込み方法

WEBにてお申し込みを受付けます。『PMシンポジウム2009』のご案内ページをご参照ください。
<http://www.pmaj.or.jp/sympo/2009/main.html>

● 参加申込み期限

8月25日(火)〔早期割引申込み期限 **7月31日(金)**〕

※申込み先着順に定員となり次第締切りとさせていただきますので、早めの申込みをお薦めいたします。

● お支払い方法

お申込み受付後、電子メールにて参加費等を記載したお申込み受け付けデータをお送りいたします。
 早期割引適用の方は8月7日(金)までに、それ以外の方は8月31日(月)までに下記の口座にお振込みください。
 また、**お振込み時には、参加者名及び電子メールに記載されていますお申込み番号を必ずご記入ください。**

※企業名でお振込みの場合は、事前に参加者名及びお申込み番号を事務局までお知らせください。
 ※請求書払いをご希望の場合は、余裕をもって申込みをお願いいたします。
 ※恐れ入りますが振込み手数料はご負担ください。
 ※参加証は、参加費のご入金を確認させていただいた後、電子メールにてお送りさせていただきます。
 ※申込み後のキャンセル取扱いは、ホームページに記載しています。

口座名：三菱東京UFJ銀行 本店 普通 0737079
 名義人：特定非営利活動法人日本プロジェクトマネジメント協会
 (トクヒ)ニホンプロジェクトマネジメントキョウカイ

● お問い合わせ

日本プロジェクトマネジメント協会・事務局
 E-mail : admi-sympo@pmaj.or.jp TEL.03-3539-3022 FAX.03-3539-1741

● **参加費** 注) 参加申込み時にPMAJに入会申込みの場合は会員扱いとなります。
 会費及びシンポ参加費の入金確認後、電子メールにて参加証をお送りいたします。

	9月10日(木)			9月11日(金)			
	シンポジウム		懇親会	セミナー・ワークショップ			
	7/31まで(早期割引)	8/1以降(通常申込)	通常申込のみ	7/31まで(早期割引)		8/1以降(通常申込)	
PMAJ個人正会員	7,000円	8,000円	5,000円	8,000円 (半日講座)	16,000円 (1日講座)	9,000円 (半日講座)	18,000円 (1日講座)
PMAJ法人正会員および ENAA賛助法人会員の社員または職員 PMI会員及びITC協会会員	10,000円	11,000円	5,000円	11,000円 (半日講座)	22,000円 (1日講座)	12,000円 (半日講座)	24,000円 (1日講座)
一般参加者	13,000円	14,000円	5,000円	14,000円 (半日講座)	28,000円 (1日講座)	15,000円 (半日講座)	30,000円 (1日講座)
学 生	3,000円		5,000円	10,000円 (半日講座)	20,000円 (1日講座)	11,000円 (半日講座)	22,000円 (1日講座)

ENAA ((財)エンジニアリング振興協会)

ENAAは、プロジェクトマネジメントをはじめとするエンジニアリング技術の向上・普及を目的として、1978年に設立されました。エンジニアリング、造船重機、鉄鋼、電機通信、産業機械、総合建設企業など200社が会員となっています。

PMAJ (NPO法人日本プロジェクトマネジメント協会)

PMAJは、プロジェクトマネジメント資格認定センター(PMCC)と日本プロジェクトマネジメント・フォーラム(JPMF)が統合されて2005年11月に発足した協会です。
 P2M資格試験や講習会・PMシンポジウム、例会、PM研修、国際交流、機関誌の発行等を通じて実践的PMの普及活動を行っています。

ACCESS 都営新宿線 船堀駅下車 徒歩1分



東京都江戸川区船堀 4-1-1 TEL.03-5676-2211

Project Management Symposium Japan 2009 ENAA/PMAJ 国内最大のPM大会

PMシンポジウム 2009

平成21年 **9月10日(木)・11日(金)**

タワーホール船堀

江戸川区総合区民ホール

時代に克つ
 知識から知恵へのプロジェクトマネジメント

基調講演1

「未来の"物創り"と"物事"創り」
 千葉工業大学 未来ロボット技術研究センター(fuRo)所長 **古田 貴之**

基調講演2

「中国における世界最高層ビルの建設プロジェクト」
 森ビル株式会社 専務取締役 **森 浩生**

主 催：財団法人エンジニアリング振興協会(ENAA)
 特定非営利活動法人日本プロジェクトマネジメント協会(PMAJ)

後 援：経済産業省

協 賛：社団法人情報サービス産業協会、
 特定非営利活動法人ITコーディネータ協会

PMシンポジウム2009 開催のご案内

昨年来の地球規模での経済の変調、環境問題やエネルギー問題等、課題山積の時代です。このような中でわが国を担うのは20世紀の成長を支えてきた団塊世代から新たな世代への移行期にあります。こうした時代にしっかり向き合っ、時代に克つには、足腰のしっかりしたプロジェクトマネジメントが必要です。近年、プロジェクトマネジメントの体系化並びに普及が進んできましたが、知識に留まる限りは本物のプロジェクトマネジメントは実現しません。今回のシンポジウムでは、知識に実践力が備わった本格派のプロジェクトマネジメントについて考えます。

先達の知恵

実践の中には様々な先達の知恵が含まれています。日本の強みであるものづくりに関わる「製造」を独立トラックとし、様々な業態におけるプロジェクトおよびプロジェクトマネジメントの実践事例を紹介いたします。

変革の知恵

明日を切り拓く活動には変革の知恵が必要です。イノベーションとプログラム&プロジェクトマネジメントをテーマにした「PMの新機軸」「P2M」トラックでは、事業概念から発する使命の達成を目標とした価値創造事業に照準を当てています。

衆知の知恵

より多くの知恵の結集が重要です。CFP（公募に基づく講演）には力作が揃いました。さらに、「カフェ・ド・eシンポ」やセミナー/ワークショップ等の参加型企画も一段とパワーアップして提供します。

各種ポイントの認定対象となる— PMシンポジウム 2009

■CPU ■PDU ■PM教育受講証明 ■知識ポイント

■CPU

発給ポイントは以下の通りです。(1時間当たり2ポイントが基本となります)

- 1日目(全時間出席の場合) : 10.5ポイント
- 2日目(半日講座) : 5ポイント
- 2日目(1日講座) : 11ポイント

CPU取得証明書を発行いたします。

■PDU

ENAAはPMI®認定教育プロバイダー(REP)であり、本大会は、メイン・シンポジウム並びに2日目のセミナー共にPMP®向けのPDU発給対象となっております。発給ポイントは以下の通りです。

- 1日目 : 7PDU
- 2日目(半日講座) : 3PDU
- 2日目(1日講座) : 6PDU

注意 PMI®へのPDU申請は必ず一括で行ってください。(1日目・2日目を分割するとエラーになります。) また、PMP®資格認定試験受験用受講証明書も発給致します。

■知識ポイント(ITコーディネータ)

ITコーディネータ資格者には、協賛(後援)により、1日目は6時間30分、2日目は、半日講座はそれぞれ2時間30分、1日講座は5時間15分(4時間当り1ポイント相当(上限なし))の「知識ポイント」が付与されます。

1日目(9月10日) 午前

基調講演1 未来の"物作り"と"物事"創り 10:00~ ロボットプロジェクト推進のコツ



千葉工業大学 未来ロボット技術研究センター(fuRo)所長 古田 貴之

ロボット技術(RT)は近年、完成度と機能・性能の進歩はめざましく、今後それらのRTが導入された製品とそれに付随するサービスの事業化は実現一歩手前まで来ている。経済産業省も国の重点開発領域としてロボット技術を上げており各種ナショナルプロジェクトも進行中である。

これからの高齢化社会を見据えた場合、RT導入率の高い各種製品を企画し事業化する動きが各業界にて現在起こりつつある。「モノの価値とは何か」「顧客価値・満足度とは」という問題の解決に主眼をおく戦略こそ、先端的RTの普及ではキモになる。特に現在製品として存在しないモノを事業化し世に送り出すためには、技術開発、サービスモデル、ビジネスモデル、さらには人材育成までを包括的に組み立てて行かねばならない。

一方で深刻な問題となりつつあるのがエンジニア志願者の激減現象である。本講演では、まず第1に、ロボット技術の最新動向とその事業化の際のプロジェクト推進スキームについて、課題と解決案をとりまぜご紹介する。ロボット界の最新動向についてもご報告させて頂く。第2に、エンジニア志願者の掘り起こしを目的とした学生・社会人対象の教育コースについても、実施趣旨と内容について紹介し、その効果についても紹介する。

RTで未来社会を築くのに必要な事柄は“物作り”でなく“物事作り”である。RTがもたらす未来社会について述べていく。

【講師略歴】 千葉工業大学 未来ロボット技術研究センター(fuRo)所長。工学博士。2001年、(独)科学技術振興機構 ERATO北野共生システムプロジェクトにてロボット開発グループリーダー。2003年6月より現職。ヒューマノイドロボット「morph3」、2003年に自動車技術とロボット技術を融合させた「ハルキゲニア01」を開発。2007年、ハルキゲニア01の進化型「ハルキ2」を開発。「ハルキ2」は、搭乗型ロボット操縦システム「ハル」とともに日本科学未来館にて常設展示・デモが行われている。経済産業省「次世代ロボット知能化技術開発プロジェクト(2007~11年)」および産官学連携の各種プロジェクトによりロボット技術の事業化・実用化に携わる。

基調講演2 中国における世界最高層ビルの建設プロジェクト 11:05~ 「上海環球金融中心」完成までの歩み



森ビル株式会社 専務取締役 森 浩生

昨年10月上海に地上492m・101階建ての超高層ビル「上海環球金融中心」をグランドオープンさせた。垂直庭園都市というコンセプトのもと、オフィス・ホテル・展望台・カンファレンス・商業施設等の各種施設を備えた延床面積381,600m²の複合開発事業である。中国経済の牽引役として発展目覚しい上海市浦東新区のなかでも国際的金融機関の集積する陸家嘴金融貿易区のランドマークとなっている。

当社にとっては、大連「森茂大厦」(1996年竣工)、上海「HSBCタワー」(1998年竣工)に続く中国における3棟目のプロジェクトであり、当プロジェクト遂行に当ってはこれまでの中国での経験を十分に生かし、日本と中国の商習慣の違いを踏まえ、取り組んだ事業である。1994年の着想から竣工までの14年間には「アジア通貨危機」による工事の中断があり、さらには中国における許認可手続の複雑さもあって、竣工までの道りは決して容易ではなかった。

今回はプロジェクトを始めるに至った経緯、プロジェクトの目的、概要を紹介すると共に、中国において実際に直面した問題点を示しつつ、当社のプロジェクト体制、スケジュール・品質管理等をどのようにマネジメントしたのかに言及する。重ねて事業採算についても言及したい。皆様の海外建設プロジェクトの参考になればと思っています。

【講師略歴】 東京大学経済学部卒。1986年4月 株式会社日本興業銀行入行。証券営業部、産業調査部を経て、1995年 森ビル株式会社入社。2000年常務取締役就任後、2003年より 専務取締役(現任)。2005年4月 上海環球金融中心投資株式会社(日本法人)代表取締役および上海環球金融中心有限公司(中国法人)董事長 就任(現任)。現在、森ビルグループ各社の経営に携わるとともに、森ビルの管理運営本部長、中国事業本部長を兼任。社外団体としては日本取締役協会会員、不動産協会住宅政策委員、2008年よりULIジャパン会長就任。

※両日とも会場はPMAJホームページにてご確認ください。(8月中旬掲載予定)

9月10日(木) ・2F 平安「カフェ・ド・eシンポ」… “参加者交流の場” “展示コーナー” “ドリンクサービス”

午前		午後						夕方	
5F 大ホール・小ホール (定員750名・300名)		ITトラック	P2Mトラック	エンジ・建設・公共トラック	PM新機軸トラック	製造トラック	金融・サービストラック	PM人材育成トラック	2F 瑞雲
09:15	開場、受付開始	[IT-1] 新技術活用の試行 錯誤といかに向き合うか SOA導入へのユーザーとベンダーの共同戦線 松田雅幸 (セガ) 入山秀樹 (ユーフィット)	[PA-1] 夢(実現)と悪夢 (回避)の経営戦略 夢プロジェクトに挑戦し、夢破壊者と戦う人のために 川勝 良昭 (亜細亜大学、中央大学 & 前・新潟県参与)	[EG-1] 複合プロジェクト マネージメント ベトナム最初の製油所& ジョイントベンチャー 牧野 幸博 (日揮)	[NT-1] グリーン電力証書 システムの生立ちと展望 民間から始めた再生可能エネ ルギーの活用施策 桑原 康浩 (KES)	[MS-1] 変化の時代のR&D 手法 オープンイノベーション 「自前主義」の壁を破り研究開 発効率を向上する 林 宏典 (リアルコム) CfP	[FI-1] 金融分野におけるIT プロジェクトマネジメント 内山 昌秋 (SBIネットシステムズ)	[PS-1] オフショア開発の 落とし穴を避けるには 海外ベンダーをどのようにコン トロールするか 長尾 清一 (PMコンセプト)	懇親会 講演者、広い層の参加者、シンポジウムチームメンバーと ネットワークを広げる交流の場を提供致します。 18:00 ～ 20:00 プロジェクトマネジメントを肴とした語らいの場では、 講演者、広い層の参加者、シンポジウムチームメンバーと ネットワークを広げる交流の場を提供致します。
09:45 ～ 10:00	開会のご挨拶 「主催者挨拶」 「来賓ご挨拶」								
10:00 ～ 10:50	基調講演 1 未来の"物創り"と"物事"創り ロボットプロジェクト推進のコツ 千葉工業大学 未来ロボット技術研究センター(fuRo)所長 古田 貴之	[IT-3] 今まで普通に行わ れていたコミュニケーション 対策を疑う 森田 智幸 (ソニー)	[PA-3] 振子式車両の 輸出におけるプロジェクト マネジメントの実践と その要点 安井 敏 (元 日立製作所)	[EG-3] 日本郵政グルー プにおける不動産戦略への 取り組み 齋藤 隆司 (日本郵政)	[NT-3] 公的資金による 研究開発プロジェクトのマ ネジメントと知見の蓄積 奥谷 英司 (新エネルギー・産業技術総合開発機構)	[MS-3] 国際協働ものづ くりプロデューサの育成 日本本社と各現地法人を結ぶ協 働業務プロセス 玉木 欽也 (青山学院大学)	[FI-3] 今、ミッションクリ ティカル・システムの再考 金融などミッションクリティカル なシステム開発の障害事例紹介 拜原 正人 (クロスリンク・コンサルティング)	[PS-3] 高い不確実性のプ ロジェクトを成功できる人材 PMと対人関係性に優れた狩猟 型プロマネ育成 伊藤 健太郎 (アイシンク)	
11:05 ～ 11:55	基調講演 2 中国における世界最高層 ビルの建設プロジェクト 「上海環球金融中心」完成まで の歩み 森ビル株式会社 専務取締役 森 浩生	[IT-4] メンタルヘルス(心 の健康)問題の現状と改善 気持ちよく働き成果を出す 「脳力」を磨け! 前田 英行 (日立公共システムエンジニアリング)	[PA-4] 宇宙国際プロジェ クトのチーム運営手法 異文化を束ねるチーム運営の コツ 長谷川 義幸、及川 幸揮 (宇宙航空研究開発機構) CfP	[EG-4] 民間企業による公共 事業の推進(PFI事業)の意義 羽田空港における国際航空貨物 ターミナル事業の目指すところ 笠間 郁雄 (東京国際エアカーゴターミナル)	[NT-4] 不確実性のマネ ジメントによるプロジェク ト組織の学習能力の向上 不確実な時代にプロジェクトを実施する組織 にとって必要な能力を如何に向上させるか 河合 一夫 (ニルソフトウェア) CfP	[MS-4] 『ヤマハ・デザイ ン』のマネジメント グローバルに存在価値のある アイデンティティ構築の為に 川田 学 (ヤマハ)	18:00より 懇親会会場となります。	[PS-4] 質問会議によるマ ネジメント力強化プログラム 組織のPM力を上げていく新手法 の事例と可能性 新岡 優子 (BFS)、 千種 実、北村 友宏 (日立システムサービス)	

※小ホールは映像による中継となります。

※講演者および演題は都合により変更される場合があります。

9月11日(金) セミナー・ワークショップ全19プログラム開催 ～PM基礎講座からPM実践・PM人材育成・IT関連セミナー/ワークショップ～

午前 (10:00～12:30)		午後 (13:45～16:15)	
A	[A-1] プロマネの知恵はどこから生まれるか! 知恵は行動から生まれる:逃げず、ぶつかり、考える 渡辺 貢成 (経営組織研究所) P2M	[A-2] PMBOK®ガイド第4版概要解説 PMBOK®ガイド第4版によるプロジェクトマネジメント知識体系の解説 米澤 徹也 (東洋エンジニアリング) PMF	
B	[B-1] Leadership in Project Management Does the competencies contribute to project success? Indranil Nath (Pricewaterhouse Coopers Consultants) Jean-Luc Creppy (Pricewaterhouse Coopers Consultants)	[B-2] 「卓越したプロジェクト」について探求する ワールドカフェによる知恵の共創 PMAJ ダイアログSIG SiG ワークショップ	
C	[C-1] 企業レベルPMOの導入成功事例 事業会社、ソフト開発企業でも総合的マネジメント力が鍵 葉山 博昭 (イデオ・アクト) 中村 智之 (ALJ)	[C-2] Ubiquity and Limits of Innovation ジェイ ラジャセクラ (国際大学)	
D	[D-1] 上機嫌プロジェクト オブティミストでいこう 中嶋 秀隆 (プラネット)	[D-2] 戦略的情報商品 (インテリジェンス) で市場を掴め いつの時代も国際競争力を勝ち抜く企業であるために 菅原 務 (日本経営士会・経営コンサルタント)	
E	[E-1] リスクマネジメント実践法 リスクマネジメントの成功条件とは何か? 中谷 英雄 (ピーエム・アライメント)	[E-2] ITユーザーPMOマネージャーのあるべき姿 PMシンポジウム2008PMO設置状況アンケートより 村田 正憲 (村田経営研究所)	
F	[F-1] なぜ、失敗を活かせないのか? 思考技術の限界～だから、その手法は使えない! 落合 敏明 (ティオス)	[F-2] 「プロデュース能力」が人と企業を救う! 大転換期のリーダーに求められる思考と行動とは 佐々木 直彦 (メディアフォーラム)	

午前 (10:00～12:30)		午後 (13:45～16:15)	
G	[G-1] どう聴き、どう伝え、どう調整するか 人間関係を構築し、ミス・コミュニケーションを減らす 田中 淳子 (グローバルナレッジネットワーク)	[G-2] ITプロジェクトのためのなぜなぜ5回(階) 現場と組織を繋ぐ5つの質問と5つの階層 小原 由紀夫 (富士通アドバンスドエンジニアリング) SiG	
H	[H-1] コンフリクト・マネジメント 多様化する職場での協力的問題解決 伊藤 滋 (オイコス)	[H-2] 仕事をおもしろくするモチベーション・マネジメント あなた自身とチームのモチベーションに効く処方箋 菊入 みゆき (JTBモチベーションズ)	

1日セミナー	
K	[K] 実践的学習の実践的学習 プロジェクトチームの学習を考える 松本 潤二 (松本屋) ワークショップ
L	[L] チームのテクニカル・コミュニケーション力 ～エンジニア・チームの知恵を高めるには～ 松尾谷 徹、林 真弓 (PS研究会、テバグ工学研究所) SiG ワークショップ
M	[M] ふりかえりによるカイゼンワークショップ プロジェクトシミュレータによるカイゼン演習 天野 勝 (永和システムマネジメント) ワークショップ

※両日とも申込み先着順に定員となり次第締切りとさせていただきますので、早めの申込みをお勧めいたします。
※講師および演題は都合により変更される場合があります。

IT-1 新技術活用の試行錯誤といかに向き合うか 13:10 SOA導入へのユーザーとベンダーの共同戦線

株式会社セガ 情報システム部 部長 松田雅幸
株式会社ユーフィット ソリューションコンサルティング部 入山秀樹

【セッション概要】 先進技術を活用するプロジェクトにおいては、通常よりも多くの試行錯誤やリスクが付きものである。このようなプロジェクトを成功裏に進めるためには、背景にある中期計画との整合性を意識しながら、絶えず、スコープの見直しを許容する柔軟性が不可欠となる。

一方、プロジェクト実行中のスコープの見直しは、発注者側と受注者側の調整が必要となる。本セッションでは先進技術であるSOAを活用したプロジェクトを題材に、それぞれの立場からいかにして共同で取り組んだか、対談形式でお届けする。

【講演者略歴】 ●松田雅幸：東京大学教養学部教養学科卒。システム監査技術者。自社内情報システムの企画・設計・開発・導入・運用を広く手がける。
●入山秀樹：東京大学理学部情報科学科卒。PMP®。SOA案件を中心に活動。PM、J-SOX関連も手がける。

IT-2 セル型生産方式による人材育成 14:15 大規模MCシステムのプロジェクトチーム編成

富士通ミッションクリティカルシステムズ株式会社
取締役 石山 史朗、部長 佐藤 博之

【セッション概要】 大規模ミッションクリティカルシステムを高品質・高生産に開発するためSIの工業化に取り組んでいる。SIの工業化を実現するための「仕組み」、「プロセスの策定」と「組織能力の向上」の視点からセル型生産方式を導入した。

当社の方式は、機能単位に専門知識を保有するセルを構築し、プロジェクト特性・規模・工程に応じ必要なスキルを持つメンバーを選出しプロジェクトチームを編成する。本講演では、セル型生産方式の実践によるSIの工業化と組織能力向上に向けた取り組みについて発表する。

【講演者略歴】 ●石山史朗：富士通ミッションクリティカルシステムズ(株) 取締役公共系、キャリア系のシステム開発PMを経て現職を務める。PMP®保有。
●佐藤博之：同上 基盤事業部 部長 公共系、金融ネット系のシステム開発PMを経て現職を務める。PMP®、PM/SM情報処理技術者。

IT-3 今まで普通に行われていた 15:35 コミュニケーション対策を疑う

ソニー株式会社 厚木テックB2BS事業本部品質保証部門
プロダクツクオリティ部QA1課 統括課長 森田 智幸

【セッション概要】 ITプロジェクトのマネジメントでは、コミュニケーションが重要である。実プロジェクトでのコミュニケーション問題を研究すると、実際にはコミュニケーションに起因する問題は殆どなく、設計問題や正しく無い方法論を使う事によって生じる問題が大半であった。これらの問題を深掘し整理した結果、問題を考える為のフレームを発見した。このフレームにしたがって、問題を考えた結果、今まで普通に行われていた行動にメスを入れると、本当に意味のある対策が立てられる事が明らかになった。

【講演者略歴】 1984年ソニー株式会社入社。情報機器事業本部にて、放送業務用VTR関連機器の量産品質管理を担当。1988年から放送局向けDigital VTR、HD VTR、HDカメラレコーダー、の品質保証業務を担当。2005年から担当事業領域の品質信頼性保証業務(評価系)の統括を担当。

IT-4 メンタルヘルス(心の健康)問題の現状と改善 16:40 気持ちよく働き成果を出す「脳力」を磨け!

日立公共システムエンジニアリング株式会社
ソリューション第一事業部 統括部長 前田 英行

【セッション概要】 プロジェクトマネジメントの使命は、「社員満足、顧客満足、会社満足のバランスが取れたプロジェクトの成功」に貢献することだと考える。これを脅かすリスクの一つとして、プロジェクトの現場では社員の心の健康(メンタルヘルス)に関する問題が大きくなってきている。この問題を予防し、さらに社員が気持ちよく働き能力(脳力)を発揮することを目指す、「人間の脳の特性に基づくストレスバランス改善法」を紹介する。

【講演者略歴】 中央官庁、自治体など公共システム開発のプロジェクトマネジャーを25年以上経験。プロジェクトマネジメント学会代議員、メンタルヘルス研究会主査。パートナーサティスファクション研究会、メンタルヘルス&キャリア研究会メンバ。PMP®、ITコーディネータ。

PA-1 夢(実現)と悪夢(回避)の経営戦略 13:10 夢プロジェクトに挑戦し、夢破壊者と戦う人のために

亜細亜大学・客員教授、
中央大学・客員講師 & 前・新潟県参与 川勝 良昭

【セッション概要】 世界同時不況と世界的激変に直面し、今何をすべきか? 将来何をすべきか? この問いに本講演をもって答えたい。本講演骨子は①太平洋戦争の日米戦略、②従来の経営戦略論、③夢(実現)と悪夢(回避)の経営戦略である。夢の経営戦略とは「夢工学」に準拠し、未知の事業領域で新技術と新市場の仮説を設定し、PMによって実現させる戦略をいう。悪夢の経営戦略とは「悪夢工学」に準拠し、戦略(夢)破壊者を如何に識別し、如何に排除するかを説いた戦略をいう。

【講演者略歴】 早大卒。新日鉄・技術協力部長、事業開発部長、セガ・テマパーク事業部長、岐阜県理事(準三役)、新潟県参与を歴任。以前、岐阜聖徳学園大学、法政大学、東京大学、現在、亜細亜大学、中央大学、中国政法大学、新潟県立大学の客員教授、講師等。PMA J理事等。

PA-2 サステナブルプロジェクトマネジメント規範 14:15 最適性の原理に基づくバリューチェーン活動の提案

青山学院大学
客員研究員 梅田 富雄

【セッション概要】 持続可能な社会の構築に向けて、プロジェクトマネジメントを持続可能性(サステナビリティ)の視点からプロジェクトライフサイクル全般にわたるバリューチェーン活動を設定して、プロジェクトの目的を達成しながら同時に環境への然るべき対応をはかり、サステナビリティを実現するために、R.ベルマン提唱の最適性の原理に基づく多次元意思決定論を展開し、その結果を実践しやすい形として、「サステナビリティを志向しながらプロジェクトの運営にあたる行動指針」として示したい。

【講演者略歴】 昭和33年千代田化工建設入社。プロセスエンジニアリングの実践、研究後、平成元年筑波大学大学院教授、同6年千葉工業大学教授 PM学科設立に従事、社会システム学部長を経て、同15年定年退職。この間経営システムマネジメントに関する研究を実施、現在も継続中。

PA-3 振子式車両の輸出における 15:35 プロジェクトマネジメントの実践とその要点

元 株式会社日立製作所 電機グループ 交通システム事業部
海外技術部 主任技師 安井 敏

【セッション概要】 P2Mによるプロジェクトマネジメントでは、受注後(システムモデル)のみならず、受注前から始めること(スキームモデル)、将来の運用も考えること(サービスモデル)、問題点の早期摘出のために知恵を働かせアクセントを付けた管理を目指すこと、等が重要である。鉄道の軌道曲線部をより高速で走行できる「振子式車両」の振り子制御システムを開発・実用化し、更に振子式特急電車を輸出してきた経験の中から、実践してきたプロジェクトマネジメントの要点を具体的事例を以て説明する。

【講演者略歴】 1974年(株)日立製作所入社。鉄道車両用各種制御装置・システムの開発・設計、鉄道車両の電気機設計、輸出電車の取りまとめなどに従事。2007年から1年半(社)日本鉄道車輛工業会へ外向、2008年12月退職。現在フリーで海外の都市鉄道計画のFS調査などに参画。

PA-4 宇宙国際プロジェクトのチーム運営手法 16:40 異文化を束ねるチーム運営のコツ

宇宙航空研究開発機構 プログラムマネージャ 長谷川 義幸
プロジェクトマネージャ 及川 幸揮

【セッション概要】 国際宇宙ステーションは、米ロを含めて世界15カ国が参加した大規模な国際共同事業で、日本の宇宙実験棟「きぼう」が取り付けられている。このプロジェクトは、国益をかけた先端技術の獲得と世界にリーダーシップを示す戦いの場であるが、搭乗員の安全を守るために国際チームのチームワークが必須条件になる。チーム運営は、コミュニケーション力、団結力および目標にチームをリードしてゆく力が必要である。本講演では、NASAと国際交渉しながら修得した異文化を束ねるチーム運営のコツに焦点をあて紹介する。

【講演者略歴】 ●長谷川義幸：1976年宇宙開発事業団入社。1995年より国際宇宙ステーション日本実験棟開発に従事。現在プログラムマネージャ。
●及川幸揮：1980年宇宙開発事業団入社。2002年より日本実験棟開発に従事。2009年よりプロジェクトマネージャ。

EG-1 複合プロジェクトマネージメント 13:10 ベトナム最初の製油所&ジョイントベンチャー

日揮株式会社
取締役 牧野 幸博

【セッション概要】 2003年以降継続した資機材の高騰・現場労働力の払底などが一転、経済危機へと突入するなど相変わらずビジネス環境は厳しく不安定である。一方、プロジェクト規模の大型化傾向は継続され、客先及びコントラクター両者にとって如何にリスクを回避するかという共通のテーマが立ちはだかっている。その解決策の一つとしてジョイントベンチャーを考える。アジア最後の市場と呼ばれるベトナムにおいて行われた最初の製油所建設プロジェクトを通し、プロジェクトマネージメントについての一考察を行う。

【講演者略歴】 慶応義塾大学工学部機械科修士課程卒、日揮株式会社に入社。主としてオイル&ガス分野の海外プロジェクトにエンジニア及びPMの立場にて従事。装置配管設計部長、エンジニアリング本部長を歴任し、第1プロジェクト本部長代行 現職。JGC-Vietnam 会長。

EG-2 新しい不動産/建設ビジネスにおけるP2Mの提案 14:15 環境不動産(ERE)/企業不動産(CRE)のP2M

日本工業大学 大学院 技術経営研究科
客員教授 太田 鋼治

【セッション概要】 低迷した建設/不動産業界の中、日本国内の企業が保有する法人所有不動産は590兆円とも言われる。新しい建設市場として、国交省は、この企業不動産(CRE)を価値の最大化を推進している。同様に、近年、環境に配慮した優良な建築・不動産ストックの価値向上を図る、環境不動産(ERE)の取り組みも推進している。本件は、これらの新しいマーケットにおける不動産/建設マネジメントについて、分かり易く説明するとともに、P2Mの観点からプロジェクトマネジメント手法を提案する。

【講演者略歴】 1979年芝浦工業大学大学院卒、同年大手建設入社。1989年ロンドン大学院卒。16年間シンガポール、英国の海外工事に従事。2000年より開発型建設プロジェクトなど国内次世代型の建設PMに従事。日本工業大学MOT大学院客員教授、工学博士、一級建築士、一級建築施工管理士。

EG-3 日本郵政グループにおける 15:35 不動産戦略への取り組み

日本郵政株式会社 不動産企画部
次長 齋藤 隆司

【セッション概要】 2007年(平成19年)10月に民営化したJP日本郵政グループ。全国に多くの不動産を有しており、その金額は約3兆円と日本でも有数の不動産を所有する会社である。歴史的建造物の再開発で注目を集めた東京中央郵便局の再整備計画に続き、大阪、名古屋と再開発を計画している。必ずしも経済環境が不安定な中、どうして日本郵政グループは不動産活用を行うのか、その戦略の一端をCRE戦略として、ご紹介するとともに、日本経済の活性化につなげようとする取り組みについて、ご説明したい。

【講演者略歴】 1986年 郵政省(現総務省)入省。1999年 人事院行政官在外研究員制度により、英レディング大学大学院客員研究員として英PFIを研究。2007年 郵政民営化に伴い日本郵政株式会社CRE部門担当部長へ就任。2008年 CRE部門次長 現在に至る。

EG-4 民間企業による公共事業の推進(PFI事業)の意義 16:40 羽田空港における国際航空貨物ターミナル事業の目指すところ

東京国際エアカーゴターミナル株式会社
常務取締役 兼 業務本部長 笠間 郁雄

【セッション概要】 2005年4月15日、国土交通省は羽田空港の再拡張・国際化にともなって必要となる国際線旅客ターミナル、貨物ターミナル、エプロン整備の3つの事業について、民間のノウハウを活用したPFI手法で実施する旨公表した。当時商社の立場でPFI事業に取り組んでいた三井物産は、旅客ターミナルと貨物ターミナル事業への入札に参加。最終的に貨物ターミナルについての事業権を獲得した。民間企業が大型公共事業を推進する意義、また今後の公共事業への民間企業のかかわり方について検証する。

【講演者略歴】 1983年三井物産(株)に入社し、海外向けのプロジェクト案件を担当。インドネシア、ロシア、カザフスタンの海外駐在を経て2005年9月に帰国し、羽田空港事業の入札段階から参画。現在 三井物産の設立した事業会社(現職)で事業推進中。

NT-1 グリーン電力証書システムの生立ちと展望
13:10 民間から始めた再生可能エネルギーの活用施策

KES代表
桑原 康浩

【セッション概要】 風力や太陽光等の再生可能エネルギーで発電した電気を利用するには諸課題が立ちはだかっていた。そこで、物理的な電気の価値とCO2を排出しないという環境貢献の価値に分割して評価する仕組みを1999年に提唱し、2001年から環境貢献の付加価値を証書化しグリーン電力証書として流通させる仕組みを構築した。現在では地球温暖化防止施策として脚光を浴び、証書発行量は2001年度の230万キロワット時から、2008年度は約2億4千万キロワット時と100倍に拡大している。その概要と展望を紹介する。

【講演者略歴】 1990年ソニー株式会社入社、工場建設・省エネ施策の導入等に従事。再生可能エネルギー活用等を含めたエネルギーソリューション組織の必要性を提唱し、2007年エネルギーソリューション室長兼担当部長に就任。2008年10月に退社、KESを設立する。博士(工学)。

NT-2 プロジェクトを成功に導くホールシステム・アプローチ
14:15 「決めない会議」の勧め

マインドエコー
代表 香取 一昭

【セッション概要】 プロジェクトをとりまく環境が複雑さを増す中で、スピードや効率を重視するこれまでの方法だけでは成果が得にくくなってきた。プロジェクトを成功に導くためには、メンバーや関係者のコミュニケーションと関係の質を高める必要があり、そのためホールシステム・アプローチへの関心が高まりつつある。このセッションでは、ホールシステム・アプローチの基本的考え方を解説するとともに、その具体的手法としてのワールドカフェ、OST、AI、フューチャーサーチについても紹介する。

【講演者略歴】 組織活性化コンサルタント。マインドエコー代表。1943年千葉県生まれ。学習する組織の考え方による組織変革プロジェクトを推進し、ホールシステム・アプローチの普及活動を展開している。著書に「決めない会議」「ワールドカフェ」「フューチャーサーチ」など。

NT-3 公的資金による研究開発プロジェクトの
15:35 マネジメントと知見の蓄積

独立行政法人新エネルギー・産業技術総合開発機構
企画調整部 主任 奥谷 英司

【セッション概要】 NEDO技術開発機構は、産業技術及び新エネルギー・省エネルギー関連の分野で多くの研究開発プロジェクトを実施してきた。プロジェクトでは、最大の成果を得るための効率的・効果的なマネジメントが求められており、プロジェクトの目的や性質に応じて産学官から最適な体制を構築し、様々な運営・評価手法を駆使しながら実施していくことが求められる。ここでは、プロジェクトを成功に導くためのマネジメント手法と、それらを継続的に蓄積し、組織全体の能力向上を図るための基本ツールを紹介する。

【講演者略歴】 2003年NEDO技術開発機構構。技術評価部(当時)、ナノテクノロジー・材料技術開発部。2007年より東北大学に1年間勤務した後、2008年6月より企画調整部にて開発関連部門の業務の総合調整等を担当。博士(工学)。

NT-4 不確実性のマネジメントによるプロジェクト組織の学習能力の向上
16:40 不確実な時代にプロジェクトを実施する組織にとって必要な能力を如何に向上させるか

株式会社ニルソフトウェア
取締役 河合 一夫

【セッション概要】 昨今の社会状況は、不確実性を増し、混迷の度合いを増している。プロジェクトのゴールは、市場や技術の変化に伴い変更を余儀なくされる。不確実性を如何にマネジメントするかが、プロジェクトの成否を左右する。不確実性下で如何に意思決定するかが重要であり、過去の経験や従来の知識にとらわれない意思決定をする組織構築がプロジェクトの実施に必要となる。本講演では、不確実な状況下において変化する目標に対応可能な組織能力の向上をプロジェクトを実施する中で構築する方法について述べる。

【講演者略歴】 株式会社ニルソフトウェア、シニアコンサルタント、PMP®。航空宇宙関連のソフトウェア開発を経た後、さまざまな業種のソフトウェア開発プロジェクトマネジメントを支援。また、PMツールの開発を行い、現在に至る。PMAJ、IEEE、PMI®、PM学会、電子情報通信学会等所属。

MS-1 変化の時代のR&D手法 オープンイノベーション
13:10 「自前主義」の壁を破り研究開発効率を向上する

リアルコム株式会社 コンサルティンググループ
プリンシパルコンサルタント 林 宏典

【セッション概要】 現在、「市場の変化に遅れず」「イノベーションを生み出すコア技術を育成する」ことは、企業の研究開発リーダー・CTOの大きな課題である。この課題を解決する手法として現在注目されているのが、“組織内と組織外のアイデアを有機的に結合させ、価値を創造する”アプローチの「オープンイノベーション」である。本講演では、P&G及び3Mといった先進企業の取り組みを紹介するとともに、自らの取り組みレベルを把握する上で有用な、診断フレームワークについてもご紹介する。

【講演者略歴】 ジョージワシントン大学 プロジェクトマネジメント学科修了。総研系コンサルティング会社を経てリアルコムに参画。研究開発、ソフトウェア開発などプロジェクト型業務でのナレッジマネジメントに強み。PMP®, PMS。

MS-2 事業イノベーションの連鎖で世界をリードする製造業へ
14:15 顧客、商品・サービス、バリューチェーン、ガバナンスの4軸事業モデル提案

パナソニックラーニングシステムズ株式会社
顧問 北村 保成

【セッション概要】 21世紀初頭からの経営改革、その途上における世界同時不況に直面している日本の製造業に対してアンケート調査を実施。外部環境と組織実力に適合した「今」と「次」の事業モデルを構想し、顧客・商品(サービス)・バリューチェーン・ガバナンスの4軸視点から事業モデルにイノベーション要素を付加してグローバルに通用するモデル構造に仕上げるプロセスを提起したものである。特に組織能力に立脚した模倣が困難な事業モデルをプログラムマネジメント手法で構築する試みに注目頂きたい。

【講演者略歴】 1972年 松下電器産業株式会社入社。本社とビデオ部門で人事を担当、山形工場工場長と事業企画や営業部長を歴任後、松下情報システムテクノロジー初代社長、システム事業部門の人材開発センター所長、パナソニックラーニングシステムズ株式会社社長を経て、2008年から現職。

MS-3 国際協働ものづくりプロデューサの育成
15:35 日本本社と各現地法人を結び協働業務プロセス

青山学院ヒューマン・イノベーション・コンサルティング(株) 代表取締役
青山学院大学 経営学部 教授 玉木 欽也

【セッション概要】 国際協働ものづくりプロデューサ育成プログラムは、海外展開済み、海外展開計画中、また海外から社員の受け入れを考えている企業に対して、マネージャおよび経営者の国際化に向けた国際的な協働ビジネスリーダーの育成を目指しています。本プログラム内容は主に次の4つです。①国際経営の協働業務プロセスの標準化とビジネスコミュニケーションのフォーマット化、②事業ライフサイクルイノベーションと国際組織改革、③現地法人の運営課題の抽出・分析・課題解決、④ダイバーシティカルチャー・マネジメント。

【講演者略歴】 青山学院大学経営学部教授、社会情報学研究科教授。「青山学院ヒューマン・イノベーション・コンサルティング株式会社」代表取締役社長。主な研究テーマ:事業創造戦略、製品戦略、国際生産戦略、ICT活用教育による人材開発。

MS-4 『ヤマハ・デザイン』のマネジメント
16:40 グローバルに存在価値のあるアイデンティティ構築の為に

ヤマハ株式会社 デザイン研究所
所長 川田 学

【セッション概要】 世界市場にあって、自社ブランドのデザイン・アイデンティティ強化を目標に掲げつつも、日本の会社組織に組み込まれたインハウス・デザイン部門は、とすると高度に専門化された事業領域や特殊環境の中で、創造性や視野までも狭く限定していないだろうか? そもそもアイデンティティとは、外部の開かれた視野から認められることではじめて、真に価値のある独自の一貫性として信頼を勝ち得る筈だ。そんな問題意識を強く持つヤマハデザイン研究所の、アイデンティティを鍛える活動を紹介したい。

【講演者略歴】 1992年千葉大学工学部工業意匠学科卒業。ヤマハ(株)にて様々な楽器、オーディオ、音楽制作ソフトのGUI等を担当。2001年RCA(英国王立美術大学院)留学、MA修得後復職。電子楽器グループ統括、プロダクトデザインセンター長を経て、2008年6月よりデザイン研究所 所長。

F1-1 金融分野における
13:10 ITプロジェクトマネジメント

SBIネットシステムズ株式会社
代表取締役社長 内山 昌秋

【セッション概要】 本年1月に「株券の電子化」が実施の運びとなったが、一連のペーパーレス化を実現したわが国証券決済制度改革は、業界横断的な性格を持つものであり、発行体、投資者から、証券会社、銀行、信託銀行などの市場参加者や、証券決済インフラ提供者(証券取引所、清算機関、証券保管振替機構など)、および当局などが広く関係する数年来のナショナル・プロジェクトである。かかるプロジェクトに、直接、間接に参加した経験を踏まえ、金融分野におけるITプロジェクトマネジメントの現状と課題について論ずる。

【講演者略歴】 1986年日興証券株式会社入社。1999年アンダーセンコンサルティング入社。2000年トレードウィン株式会社代表取締役。2006年岡三オンライン証券株式会社取締役。2008年SBIネットシステムズ株式会社代表取締役(現任)。2009年SBIトレードウィンテック株式会社代表取締役(現任)。

F1-2 金融機関におけるシステム外部委託の
14:15 現状と課題

日本銀行金融機構局
企画役 江見 明弘

【セッション概要】 金融機関のシステム開発・運用業務では、外部委託が広く行われてきたが、近年、依存度はますます高まり、委託形態も多様化しつつある。日本銀行では、システムの委託先管理を重点調査対象とし、金融機関の対応状況を確認してきたが、重要システムにおいても、委託先管理が十分でない事例が少なくない。先般、こうした問題意識から、アンケート調査を実施し、「金融機関におけるシステム外部委託の現状について」を対外公表した。本講演では、当ペーパーをベースに外部委託の現状と課題を解説する。

【講演者略歴】 84年大阪大学法学部卒、同年日本銀行入行。爾来大半をIT関連部署に所属し、日銀ネット等、各種システムの開発に従事。03年より現職。金融機関のシステムリスクに関する考査等の企画・実施を担当しているほか、システムリスク管理に係る各種調査論文を公表。

F1-3 今、ミッションクリティカル・システムの再考
15:35 金融などミッションクリティカルなシステム開発の障害事例紹介

株式会社クロスリンク・コンサルティング
代表取締役社長 拜原 正人

【セッション概要】 金融あるいは交通機関はもとより、一見ミッションクリティカルとは思われないシステムの異常がネットワーク等を介して広域システム異常に。また、システムの操作・運用誤り、地震・台風等の大規模災害によるシステム停止が、社会生活に多大な影響を及ぼしている。本講演では、ミッションクリティカルな結果をもたらした典型的なシステム障害事例を取り上げて、①障害発生事象とその原因分析、②障害事象のモデル化と防止策、③プロジェクトマネジメントへの防止策組み込み等について紹介する。

【講演者略歴】 1970年NTT入社。大規模システムDIPS開発と100を超えるPMを担当。2003年、危機プロジェクトの再建を請う、クロスリンク・コンサルティング社を設立、代表取締役就任。プロジェクト現場におけるPM危機回避のクライシス/リスクマネジメント、高度PM人材育成等を提供。



1日目(9月10日) セッション概要 - III

PS-1 オフショア開発の落とし穴を避けるには 13:10 海外ベンダーをどのようにコントロールするか

株式会社PMコンセプト
代表取締役社長 長尾 清一

【セッション概要】 厳しいコスト競争を乗り切る為、IT企業は、廉価な海外ベンダーを活用したオフショア開発の比率を上げている。しかし、商慣習や文化的な相違の認識が甘く、コスト効果の期待を裏切られ赤字に転落するプロジェクトが後を絶たない。本セミナーでは、内外の品質基準や業務遂行姿勢の違い、それに対応した契約条項の特異性に焦点を当て、外注管理の各局面で顕発する問題、それらを抑制する具体的な管理手法を説く。実践経験に裏打ちされた理論を基に、昨今の安易なオフショア開発ブームに警鐘を鳴らす。

【講演者略歴】 UCバークレー校ビジネススクール卒MBA取得。大規模プロジェクトを15年間指揮監督。1993年よりPM専門の米国企業アジア総責任者として7ヶ国でPM研修を実施。1993年PMP®取得。1997年(株)PMコンセプト設立。著書「先制型プロジェクト・マネジメント」「問題プロジェクトの火消し術」。

PS-3 高い不確実性のプロジェクトを成功できる人材 15:35 PMと対人関係力に優れた狩猟型プロマネ育成

アイシंक株式会社
代表取締役 伊藤 健太郎

【セッション概要】 プロジェクトを成功できるプロジェクトマネジャーの特徴や視点を検討していき、どのようなトレーニングが効果的なのかについて考察していく。特に、不確実性が高いプロジェクトでは、プロジェクトマネジャーのみならずメンバーも不安やストレスを抱えながらプロジェクトを遂行していくことが多い。そういう中でプロジェクトマネジャーは適切な対人関係力を発揮しながらチームとプロジェクトを成功に導いていかなくてはならない。良い成果を出すために必要な対人関係力とPM知識とは何であろうか？

【講演者略歴】 NKK(現JFE)で船舶用エンジンの製造、環境プラントのプロジェクトに従事後、プロジェクトの成功のための研修やコンサルティングサービスを提供するアイシंक株式会社設立。著書は「プロマネはなぜチームを壊すのか」「プロジェクトはなぜ失敗するのか」等。

PS-2 技術者からマネジャーへの変態 14:15 なぜ、優秀な技術者ほどマネジャーになりきれないのか

キャノンITソリューションズ株式会社
金融第一事業本部 課長 尾崎 智晴

【セッション概要】 周りを見回すと、「優秀だった」技術者が必ずしも「うまい」マネジャーになっていない。そこには、優秀だからこそ躓いてしまうジレンマがあるようだ。そもそも「技術者として」優秀だったPMには、適者適存やプロマネ依存に陥りやすいなど、潜在的にチームとしてのマイナス要素が潜んでいる。更にPM技法への過信、専門職制・スキル定義など、実は優秀な技術者ほど、周りも「勘違い」しやすい状況だと言える。これらの問題点を明らかにし、技術者からマネジャーへの変態について考察する。

【講演者略歴】 PG、SEとして約10年経験した後、1999年からPM。受託開発プロジェクトを担当後、2006年から金融SI事業部でPMを務める。PMP®、ITコーディネータ、CISA、情報処理技術者(PM、AU、SM)他。今春、東京理科大技術経営修士(専門職)を修了。

PS-4 質問会議によるマネジメント力強化プログラム 16:40 組織のPM力を上げていく新手法の事例と可能性

BFS代表 新岡 優子、(株)日立システムアンドサービス
プロジェクト推進部 部長 千種 実、同PMO 北村 友宏

【セッション概要】 質問会議とは、シンプルな質問と回答だけで、①現実の問題解決、②リーダーシップ能力開発、③チーム力向上、の3つを同時に実現する、問題解決とチーム学習の新手法である。PMが成長していく過程には、さまざまな壁が立ちほだかり、一人だけでその問題を解決していくには過酷である。「質問会議」という新しいミーティング手法を使うと、PM同士の横の連携を強め、対話の場を作り出し、チームで共に問題解決を行うことが可能になる。今回は、この会議を現場のPM層に適用した事例と、その可能性を示す。

【講演者略歴】 ●メイン講師：新岡 優子。SE、PMを経験し、現在は組織の問題解決を促進させるファシリテーターとして、企業の組織改革、プロセス改善、会議改善に取り組む。ビジネスファシリテーション・サービス代表。
●ゲスト講師：千種 実、北村 友宏(日立システムアンドサービス)

2日目(9月11日) セッション概要 - I

A-1 プロマネの知恵はどこから生まれるか！ 10:00 知恵は行動から生まれる:逃げず、ぶつかり、考える

有限会社経営組織研究所
代表取締役 渡辺 貢成



【セミナーの狙い】

プロマネは薄氷の上で仕事をし、常に難問に直面する。正解のない難問解決にプロマネの知恵が躍動する。

【セミナーコンテンツ】

知識があっても知恵の出ない人が多い。知恵が生まれる筋道を当セミナーで体得してみよう。知識は普遍性があるが、知恵はケース・バイ・ケースで、他に活用できない難点がある。そこで種々の知恵の出し方を事例で説明する。知恵の出し方をグループ討議で実践してもらおう。難問は誰にとっても難問であるが、これを解く人の資質は「逃げず」に、「ぶつかり」、その過程の中で「考える」ことによって問題の本質に到達する。最後に「考えた知恵」を多くの関係者に説得できないと、それは知恵として完結しない。

【受講をお奨めする方】

プロジェクトマネジャー、プロジェクトスタッフ、PM資格取得者。

【講師略歴】 日揮:石油精製(国内外)、原子力関連プロジェクト、日本有人宇宙システム(株)(国際宇宙ステーション関連業務)専務取締役 JPMF初代事務局長、PMAJ理事 出版:PM思考による日常革命、PM実践講座、P2M標準ガイドブック改訂版(改定委員長) 雑誌:プロジェクトマネジャー自在氏の経験則(1994~2002)、実践エンジニアリング料理講座(1993~1994)(芝 安曇) 講師:PM関連PMS、PMR、東北大学、北陸先端科技大学、中央大学のPM担当。

B-1 Leadership in Project Management 10:00 Does the competencies contribute to project success ?

Pricewaterhouse Coopers Consultants K.K.
Indranil Nath, PhD, Managing Director,
Jean-Luc Creppy, PMP®, Senior Manager

【セミナーの狙い】 Leading your team through a difficult project can test your mettle in ways you never expected. It can also draw on skills you never know you had, or at least never had to use at work. There are expectations associated with the position and the person accepting the assignment must be aware of the demands at the personal as well as professional level. The type of project, the company, the organizational structure and other factors impact the role of the project manager, but there will always be some element of leadership in the position. The PMBOK Guide® Fourth edition defines “Leadership involves focusing the efforts of a group of people toward a common goal and enabling them to work as a team.” Although important throughout all project phases, effective leadership is a contributor to the project success. In this presentation Nath, CITPM, Ph.D, and Creppy, PMP®, APMC will discuss the real leadership skills that kick in that include: enabling others, communication, flexibility, proactivity, control of his emotions, ability to sell, innovate and to “enable others”, including leadership models, personality and situational factors that influence effective leadership and organizational impact.

【セミナーコンテンツ】

The leadership styles and management in projects, Individual skills and attitudes, Individual motivation, Structural implications for project managers, Cultural implications for project managers, Unlock your leadership potential, The development of management thinking and new management paradigms, Practice workshop / Case Study
講義は英語で行いますが、質問は日本語でも可能です。

【講師略歴】 Indranil Nath, Ph.D, CITPM Indranil Nath is a Partner at Pricewaterhouse Coopers Consultants K.K. Japan. He is a Certified IT Project Manager, endorsed by NISCB, Singapore, a Chartered Information Technology Professional, endorsed by the BCS UK. His key areas of interest are Project Life Cycle Management and Software Engineering. His current research study encompasses around RE model and its use under the evolutionary life cycle in SE practice. He is a Fellow of the CML UK, member of PMI and IEEE. He holds post graduate degree in Business Administration and PhD in Engineering Management.
Jean-Luc Creppy, PMP® Jean-Luc Creppy is a Senior Manager at Pricewaterhouse Coopers Consultants K.K. Japan. He is PMP® certified and own an APMC from IIL. Active member of PMI and several SIGs. He is currently engaged in several researches related to Project Management Best Practice for sustainability projects. In parallel he is involve with Leadership Development Program for executives.

A-2 PMBOK®ガイド第4版概要解説 13:45 PMBOK®ガイド第4版によるプロジェクトマネジメント知識体系の解説

東洋エンジニアリング株式会社
米澤 徹也



【セミナーの狙い】

PMBOK®ガイド第4版が今年、米国PMI®から発行された。PMBOK®ガイドは「プロジェクトマネジメントの知識体系のうち、良い実務慣行と一般的に認められている部分を特定する」ことを目的としている。PMBOK®をベースにしたPMP®資格取得者も全世界で約32万(2009年2月現在)人となり、PMBOK®は業界を問わないプロジェクトマネジメントのデファクトスタンダードとして広く認知されている。本講座では、PMBOK®ガイド第4版を解説し、受講者のプロジェクトマネジメントの実践に役立てて頂くことを目的としている。

【セミナーコンテンツ】

PMBOK®フレームワーク、9つの知識エリアと5つのPMプロセス群からなるマトリックスを構成するプロセスの解説。PMBOK®第3版からの変更点の解説。

【受講をお奨めする方】 ①PMP®資格受験を目指す方、②PMP®の方で、PMBOK®第3版からの変更点を知りたい方、③PMBOK®ガイド第4版の内容を知りたい方、④ITC、P2M資格取得者の方でPMBOK®の概要を知りたい方など。

【講師略歴】 1978年東洋エンジニアリング(株)入社。主として海外での一般産業・石油化学プラントの設計、プロジェクト、およびコストエンジニアリング業務を担当。現在、プロジェクト管理部に所属。PMAJ理事、PMAJ研修事業第2部部会長。

B-2 「卓越したプロジェクト」について探求する 13:45 ワールドカフェによる智恵の共創

PMAJ ダイアログSIG
(学習するプロジェクト研究会)



「卓越」という言葉からどのようなプロジェクトが思い浮かぶでしょうか。「卓越とはどのような有様なのか」、「自分にはどのような経験があるか」、「プロジェクトを卓越させるには何をすれば良いのか」等、当日はワールドカフェを開催し、参加者それぞれの意見やイメージの違いの奥にあるものを探究しつつ、新たな智恵を紡ぎだすことに挑戦します。

【ワールドカフェとは】

ワールドカフェは、「深い智恵は、機能的な会議や議論からではなく、人々が自由に会話をするカフェのような場や共創的なダイアログから生まれる」という理念に基づいた話し合いの手法です。社会や組織にイノベーションを起こす方法として世界の様々な分野のプロジェクトで活用されています。

【参加をお奨めする方】 大切なことについて楽しく真剣な話し合いをしたい方、集団の中に出現する知能(集団知)に接したい方。

■ファシリテータ：中村文彦

※ 終了後、今後の研究のために調査を実施予定です。任意ですが協力をお願いします。

【SIGの紹介】当SIGでは、組織変革や新ビジネスの事業化、商品開発、大規模SI等において、対立や矛盾や感情をはらんだ問題に直面し、誰も正解を持っていないプロジェクトを想定し、このような状況を克服するための行動としてダイアログを、思考としてシステムシンキング等を活用することを研究しています。また、コミュニティにダイアログの場を作ることを実践しています。
●代表：中村文彦(ment2324@gmail.com) ●顧問：香取一昭

カフェ・ド・eシンポ

9月10日(木) 9:15~17:45 2F 平安

“参加者交流の場” “展示コーナー” “ドリンクサービス”

出展企業名	出展概要
日本プロジェクトマネジメント協会	PMAJが実施する講座、セミナー等のご案内および部会、研究会等のご参加案内。
ITエンジニアリング株式会社	「PRIMAVERA」によるEPMのシステム構築の実例・機能紹介のご紹介等を行ないます。
アイシंक株式会社	プロジェクトを成功に導く効果的なPM研修プログラム等取り組みのご紹介。
株式会社ユーフィット	今こそ「統制されたプロジェクトマネジメント」の実現で、経済危機を乗り越え利益体質強化を。
青山学院ヒューマン・イノベーション・コンサルティング株式会社	青山学院ヒューマン・イノベーション・コンサルティング(株)の研修プログラムとコンサルティング業務。
株式会社マネジメントソリューションズ	プロジェクト管理ツール/実践に役立つPMトレーニング/PMアウトソーシングのご紹介。
日揮情報システム株式会社	IT企業、エンジニアリング企業向けのプロジェクト・マネジメント・ツールの展示。
プラネット株式会社	PMグローバルスタンダードの手法をご紹介します。公開コースは、わが国最多の実績です。
株式会社ジェムコ日本経営	経営コンサルティング会社が設計したプロジェクト状況が見える化、はかる化するPMOツールのご紹介。

G-1 企業レベルPMOの導入成功事例

10:00 事業会社、ソフト開発企業でも総合的マネジメント力が鍵

イデオ・アクト株式会社 代表取締役 葉山 博昭
ALJ ITマネジャー 中村 智之

【セミナーの狙い】

現在の企業の多くは、プロジェクトの成否を個人(PM)に押し付けています。企業におけるITガバナンス・PMOがそのリスクを軽減し、PMOが中心となって、企業としてのPMへと導きます。その実際の事例をお話します。

【セミナーコンテンツ】

①多くの企業のPMOが成功していない原因。②数多くの事業会社でのPMの経験を基に、PMOのゼロからの意識改革。ITガバナンスの礎として、マネージメントへのPMOからの働きかけ、その失敗、成功事例。③ソフトウェア開発企業に於けるリスク管理を中心にしたPMOの成功事例。

【受講をお奨めする方】

各企業でITガバナンスに関連して従事する方。CIO、PMO関係の仕事をしている方。PMOに懐疑的な方。IT関係の改善活動に興味のある方。

【講師略歴】 ●葉山博昭：1948年生まれ、中堅ソフトウェア開発会社でSE、PMを30年近く行い、PMO責任者を最後に起業し、大手金融機関・通信会社のPMO設立支援・運営の指導を行っている。 ●中村智之：1955年生まれ、ソフトウェア開発会社でプログラマー、SEを手始めに外資系銀行、外資系カードブランド会社、産業再生機構配下の企業のCIO、日系証券会社のCIO部を経て、現在、ALJのIT部門でITガバナンスの責任者を務める。

D-1 上機嫌プロジェクト

10:00 オプティミストでいこう

プラネット株式会社
代表取締役 中嶋 秀隆

【セミナーの狙い】

PM技法は、ここ10年ほどの間に日本でも急速に発展を遂げた。今日その対象は、個々のプロジェクトにとどまらず、プログラムやポートフォリオに及んでいる。このセミナーでは、PMについてすこし距離を置いて考えてみたい。特に、われわれがプロジェクトから何を贈られているのか(各自で考える)、われわれの取り組む姿勢、プロジェクトという挑戦の意味に焦点を当てたい。

【セミナーコンテンツ】

はじめに：オプティミストとペシミスト
1. プロジェクト：2つのライフサイクル 2. スポーツの3つの効用
3. プロジェクトからの贈り物 4. プロジェクト：成功と失敗の5態
5. 理由もなく上機嫌 6. オプティミストでいこう 7. 人間にふさわしい苦悩 8. 第1級の知性とは 9. プロジェクトと私生活の調和
* 翻訳作業の現場から まとめ

【受講をお奨めする方】

プロジェクトとご自分のあり方について、すこし距離を置いて考えたいと思われる方。

【講師略歴】京セラ、インテルなど、日米の有力企業に約20年間勤務。その後、PM研修を軸に独立。現在、日本およびアジア地域のビジネスパーソンを対象に、PM技法の研修、コンサルティングを行っている。慶応大学非常勤講師、中央大学大学院客員教授。おもな著書に『PMプロジェクト・マネジメント』『世界一わかりやすいプロジェクト・マネジメント』『プロジェクト・マネジメント 危機からの脱出マニュアル』など。

G-2 Ubiquity and Limits of Innovation

13:45

国際大学 E-Business Management 教授
ジェイ ラジャセクラ PhD

The concept of ubiquity started with the rapid expansion of mobile devices.

The ubiquity of one technology soon became outdated as soon as a new technology appears and adopted into mobile devices.

While development of new technologies and the mobile devices equipped with such technologies needed big investments, one important question is how would the mobile operators and handset makers recover the investments.

This paper looks at this issue on a project management point of view.

講義は英語で行いますが、質問は日本語でも可能です。

【講師略歴】1995年から国際大学にてインフォメーションシステム関連のコースの教鞭をとる。国際大学着任前は米国ニュージャージー州のAT&Tベル研究所に勤務。米国と欧州間とを結ぶ世界初の光ファイバーケーブルTAT-8のコンピュータアルゴリズムのデザインを手がけ同社から特別表彰を受ける。今日のインターネットの隆盛は、彼のアルゴリズムにより 解析された光デジタルケーブルの上成り立つ。3冊の共著と、約30以上の出版物、トップジャーナルに掲載されたテクニカル論文がある。

D-2 戦略的情報商品(インテリジェンス)で市場を掴め

13:45 いつの時代も国際競争力を勝ち抜く企業であるために

日本経営士会・経営コンサルタント
菅原 務

【セミナーの狙い】

市場創造をいかに科学的回路をつくり上げ新商品開発に結びつけるか。

更に、競争力をつけるための営業力・商品力・サービス力をライバルとの比較戦略を科学的に解説し、意思決定者の判断基準へインテリジェンス化の提供について講義。

【セミナーコンテンツ】

菅原著の「CIA流経営価値診断・改善技法」より、情報インテリジェンス手法、C,V,CC戦略思考を活用し、市場創造と新商品企画を実施。

【受講をお奨めする方】

中堅マネージャー、経営企画、商品プロジェクト担当。

【講師略歴】通信工学、経営工学を学びウシオ電機入社。社長秘書、技術マネジメント、社内コンサルタント、営業を経て、経営コンサルタントとして独立。以来、35年多くの企業戦略を手がけ、現在に至る。特に1988年5月、アメリカサンディエゴにおける第12回SICP国際会議においてCIAの情報インテリジェンスに触れ、経営戦略への活用を研究。著書に「CIA流経営価値診断・改善技法」「顧客満足度(CS)の科学的評価法」ほか。

E-1 リスクマネジメント実践法

10:00 リスクマネジメントの成功条件とは何か?

株式会社ピーエム・アラインメント
取締役 中谷 英雄

【セミナーの狙い】

ほとんどの組織とプロジェクトマネージャーは、リスクマネジメントを実施しているが、期待された効果をあげられないというのが実情ではないだろうか。そして、不確実性が存在するプロジェクトでは、目標達成に至らずに、遅れ、予算超過や低いパフォーマンスを引き起こして、失敗していることに気付く。リスクマネジメントが広く使われているにも拘わらずこのような結果になるのは、どこに欠陥があるのか? このセミナーでは、リスクマネジメント成功のための、効果的なマネジメントプロセスの実践方法、個人のリスク態度・企業文化の取組方法をご紹介します。

【セミナーコンテンツ】 1.リスク標準モデルを活用してリスクの本質を理解 2.各プロセスでの留意事項と、本当に使えるツールとは何か? 3.リスクマネジメントの成熟度を向上させる上で個人、企業がやるべきこととは? 4.プログラムリスク、PFへの応用

【受講をお奨めする方】

リスクマネジメントに興味がある方。

【講師略歴】大手ITベンダー、信託銀行のシステム部門を経てシステム開発、プロジェクトマネジメントに従事。その後、現在の会社で、金融機関情報システム部門を対象に、ポートフォリオマネジメント、プログラムマネジメント、リスクマネジメントのコンサルを務める。PMAJ会員、PMI®日本支部PFM研究会会員、PM学会会員。

F-1 なぜ、失敗を活かせないのか?

10:00 思考技術の限界～だから、その手法は使えない!

株式会社ティオス
代表取締役 落合 敏明

【セミナーの狙い】

失敗プロジェクトが世に溢れている。そして多くの組織が、その失敗を教訓化するための手法・思考技術に取り組んでいる。しかし、どんなに失敗原因を掘り下げて真因を探ったとしても、多くの場合、それ自体にはそもそも何の価値もない。なぜなら、我々は現実のビジネスと向き合っているのであり、あるべきビジネスと向き合っているのではないからだ。理論上の教訓は情報にすぎない。ビジネスの現場でメンバー1人1人の具体的行動に教訓が活かされなければ、当然結果には結びつかない。当講座では、思考技術の限界を認識し、その上で過去を教訓化し、組織・個人の能力を着実に高めるための考え方について解説する。

【セミナーコンテンツ】 思考技術の限界～失敗とどう向き合ってきたか(「なぜ」は5回繰り返せない?) / 手法・技術に足りないものとは / 過去の経験を教訓として活かすためには

【受講をお奨めする方】 プロジェクトに限らず、組織・チームの問題に関心を持つ全ての方。

【講師略歴】マネージャーとして数多くの大規模プロジェクトに参加。コンサルタントとしては、PM関連、組織開発関連を中心に活躍している。大手メーカー、大手ITベンダーなどで数多くの実績をもち、実践を重視したコンサルティング活動で第一線に立ち続けている。(社)全日本能率連盟認定マスターマネジメントコンサルタント/ICMCI認定コンサルタント 著書：「研修が教えないビジネス能力の磨き方」日刊工業新聞社 など。

E-2 ITユーザーPMOマネージャーのあるべき姿

13:45 PMシンポジウム2008PMO設置状況アンケートより

村田経営研究所
代表 村田 正憲

【セミナーの狙い】

PMシンポジウム2008セミナー会場におけるITユーザーPMO設置状況アンケート集計結果のフィードバックと共に、PM、とりわけユーザーPMOマネージャーの役割、ひいてはCIOのあるべき姿を再定義する。

【セミナーコンテンツ】 経済産業省ITスキル標準のITスペシャリスト偏在、プロジェクト・マネージャー不足に鑑みて、ITユーザー企業はPMOを必要としないのか。情報システムユーザースキル標準のビジネス・ストラテジストに代わってISストラテジストがITの付加価値を定義する際に、モノ作り(QCD管理)で手一杯なプロジェクト・マネージャーに、IT・IS戦略目標の達成モニタリング、状況に応じたコントロール(軌道修正)を期待できるのか。内部統制確保の次の情報セキュリティ全体最適化といった「IS戦略実行マネジメント」、「IS戦略の実現に向けて複数の個別案件(プロジェクト)のマネジメント」、「IS戦略実行上のリスクへの対応」等は誰の手に委ねるべきか。

【受講をお奨めする方】 ITユーザー企業におけるプロジェクトマネージャー、ユーザーPMOリーダー、CIO等のIT関連プロジェクト・プログラム管理職、及び主要スタッフ。

【講師略歴】IT関連を中心とした20年近くのマネジメント・コンサルティング経験を有し、海外エンジニアリング部門におけるPMO要員、グローバル企業におけるY2K対応PMOマネージャー、公共機関における業務・システム最適化PMO中核メンバー等のPM関連の要職を歴任。主な著書には「入門 上級システムアドミニストレータ」(リックテレコム社、共著)。(PMAJ、国際CIO学会、等の各種研究活動に参画する傍ら、PMシンポジウム2008セミナー(ITリスク・マネジメント)講師の他、講演・寄稿・論文多数。

F-2 「プロデュース能力」が人と企業を救う!

13:45 大転換期のリーダーに求められる思考と行動とは

株式会社メディアフォーラム
代表取締役 佐々木 直彦

【セミナーの狙い】

「魅力的なビジョンを語り、人を巻き込んで創造と変革を起こせるリーダーが欲しい」今、そう語る経営トップが多い。きびしい不況の時代に、新しい発想で未来をつくりだすプロジェクトが必要になっているのは明らかであり、そうしたプロジェクトこそ、ビジネスパーソン一人ひとりの希望の源でもある。リーダーは、いま、どう思考し、行動すればいいのか。その鍵が「プロデュース」である。プロデュースを起こせる力、すなわちプロデュース能力こそ、リーダーの最大の武器になる。本セミナーは、プロデュース能力について明らかにし、具体的な事例を示しながら、リーダーがプロデュース能力を身につけて、自分自身と周囲をモチベートしながらプロデュースを実現していく方法について明らかにすることを狙いとする。

【セミナーコンテンツ】 1.プロデュース能力とは 2.プロデュース思考 3.行動プロセス 4.ビジョンとリーダーシップ 5.事例研究

【受講をお奨めする方】 経営トップ、マネージャー、プロジェクトリーダー、自ら新しい提案をおこない形にしていきたいと志向するすべてのビジネスパーソン。

【講師略歴】一橋大学社会学部卒業。リクルート、産業能率大学研究員を経て、起業。組織変革、営業戦略、事業開発、人材採用、キャリア創造などの領域でコンサルティング、セミナーを行うほか、様々なプロデュースを行う。著書に「プロデュース能力」『コンサルティング能力』『キャリアの教科書』『大人のプレゼン術』。共著書にJ.ガルブレイス『よい世の中』、W.ベニス/P.ピーダーマン『天才組織をつくる』、B.ナヌス『ビジョン・リーダー』。

G-1 10:00 どう聴き、どう伝え、どう調整するか 人間関係を構築し、ミス・コミュニケーションを減らす

グローバルナレッジネットワーク株式会社
人材教育コンサルタント 産業カウンセラー 田中 淳子

【セミナーの狙い】 プロジェクトにおけるトラブルにはたいていコミュニケーションが絡んでいます。目的が共有されていなかった、伝える「時」「相手」「方法」を間違えた、相手に正しく理解されなかった、などは誰でも経験があるでしょう。コミュニケーションは生来の資質に依存するものではなく、スキルとして学習することができるものです。このセミナーでは、誰でも活用できる「スキル」を学び、ひとつでも多くの気づきを持ち帰っていただくことが目的です。

【セミナーコンテンツ】 ●コミュニケーションとは●伝えたこと≠伝わったこと●人間関係を構築する●目的を共有する●相手の言いたいことを理解する●自分の考えを的確に伝える●他者の発言を整理する●質問に答える など。
(単なる座学ではなく、隣同士で会話する演習があります。)

【受講をお奨めする方】 利害関係者とのコミュニケーション(ヒアリング、説明、会議進行、質疑応答など)で、自らのスキルアップを目指したい方。

【講師略歴】 1986年日本DEC入社。96年グローバルナレッジネットワーク入社。ヒューマンスキル分野の人材育成に従事。プロジェクトマネジャーにコミュニケーションスキルを教えることも多い。「日経コンピュータ」「PMマガジン」などでコミュニケーションに関する寄稿多数。著書「速効! SEのためのコミュニケーション実践塾」(日経BP社)「はじめての後輩指導」(日本経団連出版)「ヒューマン・スキルの道具箱」(http://www.g20k.jp/)

G-2 13:45 ITプロジェクトのためのなぜなぜ5回(階) 現場と組織を繋ぐ5つの質問と5つの階層

株式会社富士通アドバンストエンジニアリング **SiG**
共通技術センターPMO推進室 担当部長 小原 由紀夫

【セミナーの狙い】 トヨタ生産方式(TPS)において真因追究手法として「なぜなぜ5回」が使われ、PMBOK®での品質管理のツールと技法の1つと考えられる。しかし、ITプロジェクトでは真因に辿り着く前に行き詰ってしまうことが多い。PMAJ-IT-SIGのWGにおいて、「なぜ」の前、「なぜ」と「なぜ」の間、「なぜ」の繰り返し方を研究してきた。世界一の品質を生み出す工場で体得した「なぜなぜ5回」の本質をITプロジェクトに適用するために、現場と組織を繋ぐ5つの質問と5つの階層が有効であることがわかった。WGの1年間の成果を反映して、より構造化した「なぜなぜ5回」を紹介する。

【セミナーコンテンツ】 1. なぜなぜ5回(階)の概要、2. 問題の識別、3. 5つの質問、4. 5つの階層、5. 実践への提言

【受講をお奨めする方】 1. ITプロジェクトのプロジェクトマネージャ、リーダー 2. IT企業の経営者、マネージャ、スポンサー 3. TPSに興味のある方。

【講師略歴】 1983年富士通入社、出向、転籍を経て現職。20年間、日本の電機・自動車のグローバル企業の工場システム構築にベンダーのプロジェクトマネージャとして参画した。TPSおよびグローバルPMメソッドを普及している。PMI会員誌PM NETWORK本年4月号でグローバルに紹介された。PMP®。米国ケイデンスマネジメント社認定講師。PMAJ会員。PMI®会員。PMAJ-IT-SIG「TPSに学ぶPM」WG主査。

K 10:00 実践的学習の実践的学習 プロジェクトチームの学習を考える

松本屋 松本 潤二 **ワークショップ**

【セミナーの狙い】 昨今は特にプロジェクトの運営をする上で、チームメンバーの育成や熟達者からの暗黙的情報や技術の移転伝承が求められています。このような状況の中で、いかに効率よく知識を共有し、さらにその知識を実践に実践できるようにするかが、課題となっています。そこで、このセミナーでは、学習に関する知見をもとにして体験的に学習を進めます。特に、子供と大人の学習の仕方の違いを学び、効率的なプロジェクトチーム内の人材を育成するかを学習します。

【セミナーコンテンツ】 大人の学習の特性、協同学習、周辺参加理論、学習心理学などの知識。大人の学習の実践的な体験。

【受講をお奨めする方】 プロジェクトのマネージャーやリーダー、OJTのトレーナーなど、チームの中で人材の育成や管理に携わる人。チームメンバーや後輩に技術等をうまく教えたり伝授したい人。

【講師略歴】 ソフトウェアハウスを経て起業。プロジェクト・ファシリテーションを実際のシステム開発の現場で実践、アジャイルプロセスやコーチングなど、技術と人間力を最大限に活用するチーム創りと、人材の積極的な育成を行う。また、プロジェクトチームにだけでなく、経営者やエンジニアを中心にパーソナルコーチングや、人材育成やコミュニケーション活性化、IT技術の研修の講師を行う。

L 10:00 チームのテクニカル・コミュニケーション力 エンジニア・チームの知恵を高めるには

PS研究会、有限会社デバッグ工学研究所 **SiG** **ワークショップ**
松尾谷 徹(法政大講師,博士)、林 眞弓(立正大講師,産業カウンセラー)

【セミナーの狙い】 ITプロジェクトにおいて、エンジニア各自の「知識」を「チームの知恵」とする課題がある。先進的なリーダーは、ヒューマンコミュニケーションに努め、ファシリテーションを導入し努力している。しかし、それだけでは「チームの知恵」を発揮することが困難である。ここでは、テクニカル・コミュニケーションを活性化するアプローチを加えたエンジニア・チームビルディングを習得する。

【セミナーコンテンツ】 1. エンジニアの価値観、2. チームビルディング基礎、3. リーダシップ基礎、4. HMコミュニケーションとテクニカルコミュニケーション、5. クリエイティブ型チーム これらの理論と演習をおこなう。演習はレゴを使ったものなどを用意した。

【受講をお奨めする方】 エンジニア同士できちんとインタフェースを決めてほしいPM、無駄なコミュニケーションをとりたくないエンジニア、仲良し日和見チームで困っているリーダーなど。

【講師略歴】 ●松尾谷徹：2002年よりPS(パートナー満足)研究会を主宰し、プロジェクトにおけるプロフェッショナルの人的リソースの研究を推進。研究活動の一方で、現実の問題解決のため企業と連携した実証活動と、普及のためのセミナー活動を行っている。●林眞弓：大手電機メーカーの人事部門を経て、現在、プロジェクトのコミュニケーションファシリテーションのコンサルと普及に従事している。両者ともデバッグ工学研究所に所属。

H-1 10:00 コンフリクト・マネジメント 多様化する職場での協調的問題解決

株式会社オイコス
伊藤 滋

【セミナーの狙い】 多様性を前提とする雇用環境において、職場の問題、ビジネスの問題を捉えるコンフリクト・マネジメントの基礎的考え方を紹介する。また、Win-Winという概念を体感することによって、自らが囚われている「思いこみ」に気づき、幾つかのワークを通じて協調的問題解決アプローチのエッセンスやフレームワークを学ぶ。

【セミナーコンテンツ】 コンフリクト・マネジメントの基本的な考え方や協調的問題解決モデルの紹介(レクチャーや体験学習)、グループワークやグループディスカッション、ケーススタディー分析など。

【受講をお奨めする方】 基礎的なマネジメント・スキル、(特に多様性の高い)職場での問題解決能力にご関心のある方。

【講師略歴】 株式会社オイコス メンター。名古屋大学国際開発研究科にて修士号取得。国際協力機構(JICA)にて国際協力の業務に従事し、ブラジルなどでの政府間交渉業務を行う。米国CTI認定コアアクティブコーチの資格取得後、主に異文化研修・多様性研修・ファシリテーション研修・リーダーシップ研修などを大手企業などに対して実施。異文化コーチングについても研究を行う。

H-2 13:45 仕事をおもしろくするモチベーション・マネジメント あなた自身とチームのモチベーションに効く処方箋

株式会社JTBモチベーションズ R&D局
モチベーション・コンサルタント 菊入 みゆき

【セミナーの狙い】 モチベーションは、仕事を成果につなげる鍵である。「プロジェクトマネージャー自身が高いモチベーションを保ち、まわりのモチベーションをサポートする。」これができれば、プロジェクトの運営は格段にスムーズになり、成功への確率も高まる。あなたのチームのモチベーションは、いったい何に支えられているのだろうか。あなたの行動は、相手のモチベーションにどのような影響を与えているのだろうか。内発的なモチベーションは、どうすれば高まるのか。理論と実例の紹介、参加者同士のディスカッションを通じ、現場で使えるモチベーション・マネジメントを学ぶ。

【セミナーコンテンツ】 モチベーションの特徴、モチベーションの自己分析、マネジメント・スタイルの自己分析、モチベーションの処方箋、最初の一步を踏み出すヒント、などを、講義とグループディスカッションの形式で学ぶ。

【受講をお奨めする方】 チームのモチベーションを上げたい方、仕事をおもしろくしたい方。

【講師略歴】 株式会社JTBモチベーションズ所属、モチベーション・コンサルタント。同社創業時(1993年)に入社、モチベーションを切り口に、顧客企業のモチベーション分析、コンサルティング、社員教育に携わる。「やる気」分析システムMSQの開発、各種研修プログラムの開発を担当。「やる気が出ないとき読む本」東洋経済新報社、「できる人の口ぐせ」中経出版、「仕事ができる人の8つの性格」幻冬舎など著書多数。

M 10:00 ふりかえりによるカイゼンワークショップ プロジェクトシミュレータによるカイゼン演習

株式会社永和システムマネジメント コンサルティングセンター
センター長 天野 勝 **ワークショップ**

【セミナーの狙い】 新規開発、保守開発、システム運用などのITプロジェクトを進める上で、ふりかえりは、知識を得ること、さらには知識を知恵へと昇華するのに必須の活動といえる。しかし、ふりかえりミーティングの頻度や、必要工数の最適値は、プロジェクトの特性に依存するため、効率よく行えていないという現状がある。そこで、プロジェクトの特徴的な属性をパラメータとするプロジェクトシミュレータを用いて、プロジェクトを俯瞰的に捉えて、最適解を考えていく。さらには、ふりかえりミーティングの「生産性」の定義と、その向上のコツを演習を通して学んでいただく。

【セミナーコンテンツ】 KPTふりかえり、プロジェクトの見える化、プロジェクトシミュレータによるカイゼン演習、ふりかえりによるプロジェクトカイゼン、ふりかえりミーティングの生産性。

【受講をお奨めする方】 ITプロジェクトの現場にカイゼンを導入しようと考えているプロジェクトマネージャー、およびチームリーダー。

【講師略歴】 株式会社永和システムマネジメントにおいて、オブジェクト指向をはじめとするソフトウェア開発技術および、アジャイルソフトウェア開発プロセスの導入に関するコンサルタントとして活躍。オブジェクト倶楽部事務局長。著書：「eXtreme Programmingテスト技法 - xUnitではじめる実践XPプログラミング」、「リーン開発の本質」、「アジャイルソフトウェア開発スクラム」、その他、雑誌への寄稿多数。

